

**令和2年度地域管理経営計画等に関する検討会  
委員からの主な意見等**

(複層林への誘導)

- 複層林に誘導する場合の下層木の更新は針葉樹が主体か、または広葉樹を主体とするのか。

(施業方法の見直し)

- 香川森林計画区の変更となる施業方法は天然生林施業の割合が高くなっているが、現況はどのような林分か。

(複層林施業林分における広葉樹の更新)

- 複層伐実施後の広葉樹の更新状況確認は、四国森林管理局の天然更新完了基準に基づき行われるとのことだが、広葉樹の更新稚樹がシカにより食害を受けられる場合もあるので、対策をお願いしたい。

(面的複層林における伐採)

- 群状による1伐採箇所の面積は2.5haであるが、帯状の場合の伐採幅はどの程度か。

(シカ被害対策)

- 今治松山森林計画区の高縄山系はニホンジカが非常に多い地域であるが、当地区で現在実施しているシカ対策と、今後の計画について教えてほしい。

(人材育成)

- 山に資源はあるが、労働力不足のため木材の増産が追いつかない。高知県立林業大学校で年間20名程度の若手後継者が育成されているが、高齢によるベテラン職員の減少の方が多い。また、子育て世代の30～40代の離職が多い。現場で働く者の労働条件の改善を林業全体で考えていくべき。

(ICTを活用した森林管理等)

- 災害地でのドローンの活用による素早い対応や、ICTを使用した施業管理、シカ対策も積極的にお願いしたい。

(国産材の安定供給)

- コロナ禍の中、アメリカでは財政出動により住宅着工件数が増え、米材の価格が高騰。米材は自国内での消費が増加、ヨーロッパではアメリカ向けの材を販売

しており、日本への供給が減少している状況。今後は国産材の安定供給を確保し、輸入材のシェアを国産材に向けるまたとない機会と考えている。

- 近年、ビルの建築にCLTが活用されており、国産材を使用した建物が増えると思われることから、国産材の安定供給をお願いしたい。

(保持林業)

- 皆伐施業による負の影響を低減させるため「保持林業」が提唱され、日本でも北海道などで成果が得られている事例があるようなので、次期以降の計画で検討されてはどうか。